

製品名: NDUFS7 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab14519**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:20000-1:40000

分子量

抗原情報

遺伝子名	NDUFS7
別名	NDUFS7; NADH dehydrogenase [ubiquinone] iron-sulfur protein 7; mitochondrial; Complex I-20kD; CI-20kD; NADH-ubiquinone oxidoreductase 20 kDa subunit; PSST subunit
遺伝子 ID	374291.0
SwissProt ID	O75251
免疫原	抗血清はヒト NDUFS7 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 164-213

背景

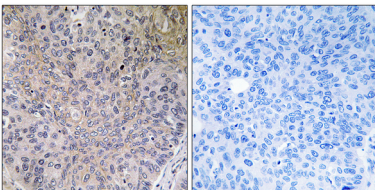
この遺伝子は、ミトコンドリア呼吸鎖を形成する複合体の一つを構成するサブユニットタンパク質をコードしています。このタンパ

ク質は、複合体Iに含まれる40以上のサブユニットの一つであり、ニコチンアミドアデニンジヌクレオチド (NADH) -ユビキノン酸化還元酵素です。この複合体はNADHから呼吸鎖への電子伝達に機能し、ユビキノンは酵素の直接的な電子受容体と考えられています。この遺伝子の変異は、ミトコンドリア複合体I欠損によるリー症候群を引き起こします。リー症候群は、脳皮質下領域に左右対称の壊死性病変を生じる重篤な神経疾患です。 [RefSeq 提供、2008年7月]触媒活性: NADH + 受容体 = NAD(+) + 還元受容体。触媒活性: NADH + ユビキノン = NAD(+) + ユビキノール。補因子: 1つの4Fe-4Sクラスターに結合。疾患: NDUFS7の欠陥は、複合体Iミトコンドリア呼吸鎖欠損症[MIM:252010]の原因である。複合体I (NADH-ユビキノン酸化還元酵素) は、ミトコンドリア呼吸鎖の最大の複合体であり、40以上のサブユニットを含む。ミトコンドリア内膜に埋め込まれ、一部はマトリックスに突出している。複合体I欠損症は、ミトコンドリア疾患の最も一般的な原因である。これは呼吸鎖欠損症全体の3分の1を占め、神経疾患から心筋症、肝不全、ミオパシーに至るまで、多様な臨床症状の原因となる。疾患: NDUFS7の欠陥は、リー症候群 (LS) [MIM:256000]の原因である。LSは、脳皮質下領域における左右対称の壊死性病変を特徴とする重篤な神経疾患である。機能: ミトコンドリア膜呼吸鎖NADH脱水素酵素 (複合体I) の中核サブユニットであり、触媒作用に必要な最小限のアセンブリに属すると考えられている。複合体Iは、NADHから呼吸鎖への電子の移動に機能する。この酵素の直接の電子受容体はユビキノンと考えられています。類似性:複合体I 20 kDa サブユニットファミリーに属します。サブユニット:複合体Iは45の異なるサブユニットで構成されています。これは酵素の鉄硫黄 (IP) フラグメントの構成要素です。、

研究分野

酸化的リン酸化、アルツハイマー病、パーキンソン病、ハンチントン病、

画像データ



NDUF57抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。